



第16号

出藍

令和5年9月1日発行

〒358-0003

入間市豊岡1-15-1

埼玉県立豊岡高等学校

同窓会 会報編集委員会

豊岡高校陸上競技部

今回は豊岡高校陸上競技部にスポットを当てた特集を組んだ。開校間もない頃から発足し、多くの結果を残してきた部活動の一つである。陸上競技とは走る・跳ぶ・投げるなど多くの種目を行う競技である。中学生の頃の実施種目は少ないが、高校生になるとオリンピックなどテレビで見える種目とほぼ同じ種目が行われる。調べてみると豊岡高校陸上競技部は、オーラウンドでどの種目でも活躍が目立った。特に昭和後期から平成初期にかけて、毎年のように全国大会へ選手を送り出してきた。当時の名将と言われる顧問が代々赴任し、多くの選手を育ててきた。少

豊岡高校陸上競技部



し紹介したい。当時の全国高校記録を作った4×100mR、最速の高校生を決める1000mで日本一まであと一歩へと迫った西久保信行選手、廣田誠一選手、様々な種目を組み合わせ得点を争う5種競技でインターハイ優勝した岡村幸次選手、女子ハードルで国体3連覇を果たした吉田寿美子選手、近年では、リオ五輪・東京五輪の代表となった佐藤拳太郎選手な

豊岡高が初代表

2時間19分11秒2
二位秩父農、三位は行田高

全国高校駅伝選手権大会
豊岡高校が初代表として出場し、2時間19分11秒2で二位に食い込んだ。三位は行田高、四位は秩父農工高校、五位は山梨学院大、六位は山梨学院大、七位は山梨学院大、八位は山梨学院大、九位は山梨学院大、十位は山梨学院大、十一位は山梨学院大、十二位は山梨学院大、十三位は山梨学院大、十四位は山梨学院大、十五位は山梨学院大、十六位は山梨学院大、十七位は山梨学院大、十八位は山梨学院大、十九位は山梨学院大、二十位は山梨学院大、二十一位は山梨学院大、二十二位は山梨学院大、二十三位は山梨学院大、二十四位は山梨学院大、二十五位は山梨学院大、二十六位は山梨学院大、二十七位は山梨学院大、二十八位は山梨学院大、二十九位は山梨学院大、三十位は山梨学院大、三十一位は山梨学院大、三十二位は山梨学院大、三十三位は山梨学院大、三十四位は山梨学院大、三十五位は山梨学院大、三十六位は山梨学院大、三十七位は山梨学院大、三十八位は山梨学院大、三十九位は山梨学院大、四十位は山梨学院大、四十一位は山梨学院大、四十二位は山梨学院大、四十三位は山梨学院大、四十四位は山梨学院大、四十五位は山梨学院大、四十六位は山梨学院大、四十七位は山梨学院大、四十八位は山梨学院大、四十九位は山梨学院大、五十位は山梨学院大、五十一位は山梨学院大、五十二位は山梨学院大、五十三位は山梨学院大、五十四位は山梨学院大、五十五位は山梨学院大、五十六位は山梨学院大、五十七位は山梨学院大、五十八位は山梨学院大、五十九位は山梨学院大、六十位は山梨学院大、六十一位は山梨学院大、六十二位は山梨学院大、六十三位は山梨学院大、六十四位は山梨学院大、六十五位は山梨学院大、六十六位は山梨学院大、六十七位は山梨学院大、六十八位は山梨学院大、六十九位は山梨学院大、七十位は山梨学院大、七十一位は山梨学院大、七十二位は山梨学院大、七十三位は山梨学院大、七十四位は山梨学院大、七十五位は山梨学院大、七十六位は山梨学院大、七十七位は山梨学院大、七十八位は山梨学院大、七十九位は山梨学院大、八十位は山梨学院大、八十一位は山梨学院大、八十二位は山梨学院大、八十三位は山梨学院大、八十四位は山梨学院大、八十五位は山梨学院大、八十六位は山梨学院大、八十七位は山梨学院大、八十八位は山梨学院大、八十九位は山梨学院大、九十位は山梨学院大、九十一位は山梨学院大、九十二位は山梨学院大、九十三位は山梨学院大、九十四位は山梨学院大、九十五位は山梨学院大、九十六位は山梨学院大、九十七位は山梨学院大、九十八位は山梨学院大、九十九位は山梨学院大、百位は山梨学院大

全国高校駅伝大会

年末年始に開催される高校スポーツとしてラグビー、サッカーが有名だが、それらと共に、京都で開催されている全国高校駅伝大会があるのはご存じだろうか。ど……。ざっと挙げてもこれだけの選手が出てくる。ここでは紹介しきれないほどの名選手があのグラウンドから育っていったのだ。ただ今回は、その中でも長距離種目に絞って紹介する。

豊岡高校 全国高校
駅伝大会出場

別名「都大路」。2022年12月開催で男子73回、女子34回になり京都の風物詩として定着している。各県の代表1校しか出場できない、全国一の駅伝チームを決める大会である。(5年に一度は記念大会としてブロック大会1位も出場できる。埼玉は北関東ブロックに属する)この大会に豊岡高校は埼玉県予選を勝ち上がり2回出場している。県チャンピオン1校しか出場できないので、埼玉県予選も73回実施されているが、全国出場経験がある学校は少ない。特に近年は、私学が強化部として選手勧誘から監督招聘と力を入れていたため県立高校の入賞すらも難しくなりつつある。(資料1)。

ここからは豊岡高校陸上競技部の2回の出場について紹介したい。この活躍は、2回とも吉田世栄夫先生の在職中に成し遂げられた。吉田先生が本校陸上部を率いた16年間をまとめた「陸上競技部」思い出の16年間」や当時の新聞、百年誌「出藍の誉」の中から紹介していく。

〈昭和39年11月〉第15回大会

この年は豊岡実業高校から豊岡高校へと改称された年である。近年豊岡高校は、総合力は高かったがエース区間での勝負に競り負け、優勝まであと一歩と悔しい思いを続けていた。諸先輩方の思いは強く、いよいよ今年こそと意気込んでいた年でもある。優勝候補は

大宮工業。前14回大会中7連覇を含む10回優勝の常勝軍団である。打倒大宮工業の筆頭が、2位を連続して取っていた豊岡高校であった。豊岡高校は、前半のエース区間では欲を出さず堅実にタスキを繋ぎ、中盤以降に勝負をかける作戦を立てた。この作戦がうまく機能した。1区島村省吾選手、2区石森正明選手が共に区間3位と粘り、先頭が見える2位に位置した。

〈昭和49年11月〉第25回大会

初優勝から、なかなか続けて力を発揮することが難しかった。この10年間、入賞を逃す年もあり苦しい時期が続いた。前々回大会からは再度入賞し、3位・3位と来ている。この年ライバル校は、飯能高校と秩父農工。飯能高校は21回大会で初優勝し、その後3回連続

2位。近隣でもある飯能高校とは良きライバル関係にあった。秩父農工は、前回の優勝からの9年間で7回優勝している強豪チームである。この年、豊岡高校のオーダーは通説を覆していた。本来、力のある選手は前半に配置し流れを作るのが駅伝の鉄則である。しかし、豊岡高校はエース格の川名正選手・山口勝彦選手を外し、3番手として思われていた阿部和明選手をエース区間の1区に配



置した。そして川名・山口両エースを3・4区に配置。1区でライバル校との差を最小限に抑え、中盤以降勝負に出る作戦だった。しかし、1区の阿部選手は期待以上の走りを披露する。ライバル校のエースと互角に戦うどころか、後半抜け出してトップで2区（菅野選手）へ中継。エースを温存している豊岡高校は、あとは2位以下を突き放し、独走を築くことは容易に予想できる。一切他校の背中を見ることがなく独走で10年ぶり2度目の優勝を勝ち取った。

浦和	1回
川越	2回
大宮工	10回
秩父農工	9回
豊岡	2回
熊谷商工	1回
飯能	2回
埼玉栄	40回
鳩山	2回
武蔵越生	2回

資料1

直前練習での選手の動き、様子、選手の性格を見極めてのオーダー編成は名将吉田先生しかできない技であった。全国大会では振るわず36位。2回目であったが全国の大舞台で力を発揮するのは容易ではなく、厳しい結果となった。

全国高校駅伝出場校

過去の資料を探し、資料1をまとめてみた。全国高校駅伝への出場経験がある学校は限られていることに気付く。男子は73回開催されているが、

男子に遅れること39年、女子の全国大会も開催された。開催が始まった頃

女子高校駅伝大会

10校しか全国大会へは駒を進めていない。埼玉県立学校数、約150校を考えると驚く結果である。本校は2回であるが、これは誇らしい成果であることがわかる。昭和後期から強化に乗り出した埼玉栄が現在に至るまで優勝を重ねている。まさに常勝軍団だ。埼玉栄は全国優勝経験もあり、入賞も多く達成している。県立高校としては平成5年に鳩山高校が出場してから空いてしまっている。近年、部活動の在り方が変化している中、県立高校が勝ち上がるのがますます難しくなっていくことが予想される。

は、すでに私学が部活動を強化し始めている頃であったため、本校女子チームは優勝経験こそないが、開催2年目から6年連続して入賞&関東大会へ連続出場をしている。卒業生では、城西大学へ進学し、女子大学駅伝で日本一のゴールテープを切った飯田聡子選手、国士館大学へ進学しマラソン学生記録（当時）を作った逸見八重子選手がいる。逸見選手はその後、実業団選手として、あの

小出義雄監督から指導を受けている。

お家芸リレー種目

冒頭でも触れたように、本校陸上競技部の歴史を辿ると輝かしいリレー種目などの短距離種目の活躍が目を引く。今回は駅伝での活躍に絞った紹介になったが、全国へ名を轟かせた短距離についてはまた、機会があれば紹介していきたい。

豊岡高が二度目の優勝
高校駅伝 男子選 埼玉栄、健闘し二位

◇大会の記録◇
1区 浦和 10分45秒
2区 川越 10分45秒
3区 大宮工 10分45秒
4区 秩父農工 10分45秒
5区 豊岡 10分45秒
6区 熊谷商工 10分45秒
7区 飯能 10分45秒
8区 埼玉栄 10分45秒
9区 鳩山 10分45秒
10区 武蔵越生 10分45秒



日頃は、同窓会の運営に会員の皆様から多大なご協力とご支援をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

本会の会員数は、今年度309名の新会員を迎え総会員数2万5千名での活動が始まりました。

改めて、これまでの歴代会長をはじめ、多くの役員の皆様、同窓生が築かれました本会の歴史と伝統を振り返ります時、身が引き締まる思いがしております。微力ではございますが、同窓会の充実発展に向けて、誠心誠意努力してまいります所存でございます。

百周年事業も無事終了しましたので、次なる百五十年に向けて、充実した活動を継続していくためには、組織の活性化を図ることと考え、副会長の複数体制と女性副会長の登用を最優先課題として取り組んでまいりました。その結果、六月の常任理事会で、大野満・小林守利副会長に加え、新たに、友山宏一様と本会初めての女性副会長として大野清恵様が承認され、令和5年度の組織が確立しました。

一方で、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが、「5類」に移行

したとはいえ、情報発信の在り方や、役員の改選、財政基盤の確立等、いくつかの課題を抱えていることも事実でございます。今後も時代の趨勢や社会の動向なども見据えながら、同窓会の本来の目的であり「会員相互の交流と親睦」並びに「豊岡高等学校発展」のため、同窓生の皆様と心を一つにして、この難局を乗り越えてまいります。

最後になりましたが、今日まで長きにわたり本会副会長としてご尽力くださいました、仲川幸成様に対しまして、心から敬意を表し、深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝と今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。



この度は豊岡高校同窓会に入会させて頂きありがとうございます。第73期生徒会長を務めました、春日愛咲です。今後ともよろしく願います。

今日このような機会を頂き、三年間を振り返りますと、「本当に豊岡高校の生徒でよかった」と自信を持って言えます。生徒会活動を終えて、私は多くの人に支えられていたのだなと実感できました。第73期生徒会では目標であった、各委員会との交流が増え、より一層活動の輪を広げることができました。生徒会本部単独ではなくそれぞれの



委員会が連携しあって活動できたのは、皆さんの協力があったからこそだと思います。辛いことも沢山ありましたが、仲間や先生、豊岡高校の全生徒に恵まれて得たものは私にとって大きな財産です。本当にありがとうございます。最後にありますが、今後の豊岡高校の益々の発展を微力ながら応援していきたいと思っております。どうぞよろしく願います。





同窓会員のみなさまへ
 新着任のご挨拶

校長 安藤 龍嗣

今年度より本校校長として着任しました安藤と申します。私は、平成26年度から28年度までの3年間、教頭として勤務しております。当時の木下会長はじめ同窓会の皆様にはその節は大変お世話になりました。再びこうして本校に着任できましたことは、私にとりましてはとても幸せなことでございます。百周年記念式典も盛大に挙行できたことと伺っております。あらためてお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルス関連では、第5類相当に変わり、学校生活も新型コロナウイルス感染症拡大以前の元氣さを取り戻しつつあります。今年度の干支は兎年ということもあり、さらに飛躍できるような生徒たちに頑張ってもらおうと思っております。入学式では319名の新入生たちに「自己選択・自己管理・自己実現」をしっかりとやってほしいと伝えました。本校の100年を超える伝統を継承し、さらに発展させていくために新入生に大いに期待しています。始業式では、新2・3年生に志を高く持つてほしい、リーダーになってグローバル化する社会の中で人類の平和と幸福のために貢献できる人材になってほしいと話しました。新型コロナウイルススやロシアのウクライナ侵攻、トルコの大地震など、外国での出来事が日本

に大きな影響を及ぼすことを強く実感させられる日々が続いています。そんな社会に生きている、そして生きていくたくましい力を身に着けてほしいと思っております。

今年度1年次生から一人一台端末（タブレット）を導入しております。小学校ではすでに始まっていますが、いよいよ高校生にも浸透してきました。DX（デジタルトランスフォーメーション）化が勢いを増して進んでまいります。本校の歴史と伝統を引き継ぎ、地域の期待に応える進学校としてさらに飛躍していくためにも、このグローバルイゼーションとDXを中心に元氣な豊高生を育ててまいりたいと存じます。同窓会の皆様におかれましては今後ともますますのご健勝をご祈念申し上げますとともに、今後も本校へのご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

部活動訪問 (第14回)

華道部

部長 高橋 栞奈

私たち華道部は「自由花」を基調として、日々楽しくお稽古に取り組んでいます。活動日数は多くありませんが、その分一回一回丁寧に、心を込めてお花を生けています。豊高祭の作品展示に向けて、月に一回、本校の先輩でもある講師の高原誠子先生が来てくださり、私たちの個性を大切にしながらご指導して下さいます。その教えを生かして、毎週木曜日の昼休みには事務室前にお花を生けています。

普段の部活動では全員が同じ花材を使っ

ていますが、豊高祭では全員が違う花材を使うので、より個性が際立ちます。校外を含めた、たくさんの方々に見てもらえる一年の中でも最初で最後の機会なので、より一層丁寧に、心を込めてお花を生けます。他にも個人の作品以外で、みんなで一つの作品を作り上げる「合作」を行います。これまで培ってきた個性や知恵を集結させ、一つの大作を創り上げます。豊高祭は貴重な経験で、たくさんの作品に触れたり、新たな挑戦をすることができるので、自分を大きく成長させることができます。これからも、華道を通してたくさんの方に触れ、学び、共に高め合っていきたいと思っております。



進路指導部より

令和5年度入試の結果をお知らせします。

3回目の大学入学共通テストでした。依然として平均点は安定していません。また、コロナ禍で休校などもあり生徒は不安を抱えながらの受験でした。生徒は3月まで頑張り続けました。国公立大学では現役生の中から2名の合格者ができました。

令和5年度入試合格者数（過年度卒含む）				
四年制大学	短期大学	専門学校 (看護医療系)	専門学校 (看護医療系除く)	就職・公務員
346	11	20	46	11

～主な合格先～

【四年制大学】（延べ人数）

現役生：茨城大学（1名）、埼玉県立大学（1名） 過年度：防衛大学校（1名）

早慶上理（東京理科1名）…計1名合格

GMARCH（中央2名、法政6名）…計8名合格

日東駒専（日本14名、東洋8名、駒澤3名、専修1名）…計26名合格

四工大（東京電機12名、工学院5名、東京都市1名）…計18名合格 その他多数合格

【就職・公務員】

ヤオコー、航空自衛隊、海上自衛隊、海上保安学校、警視庁、埼玉県警

扁額「創造」の 仕立て直し

「創造」は戦後の新教育と本校の発展のために東京帝国大学総長の南原繁氏に筆を執って頂いたものです。長年図書館に飾ってあったが、図書館の空調工事に伴い扁額を外しました。書かれてから70年以上が経ち傷みや汚れが目立っていたので、専門業者をお願いして汚れや染み抜き、裏打ちの直しなど仕立て直しをしてもらい、作品が傷まぬよう額に紫外線カットのアクリル板を付けました。作業工程の中で扁額に貼ってあった金箔はとても高価なもので今では同じものは特注をしないと出来ないと言われました。「創造」は、末永く豊岡高校の宝として



豊岡高校で学ぶ生徒のみなさんに、また図書館を訪れた方に見ていただけるよう図書館カウンターの後ろに飾ってあります。なお、創造の謂れについては、百周年記念誌「出藍の誉れ」のP309を見てください。（同窓会のHPにも掲載しております。）

扁額「進徳修業」の寄贈

本扁額は入間郡三ヶ島村（現所沢市三ヶ



図書館入口に掲げています。

島）村長新井浅五郎氏が、衆議院議員粕谷義三（号は竹堂・出藍15号参照）氏より扁額2枚をかいてもらったそのうちの1枚です。後に新井氏は、これを妻（大館右喜氏祖父の妹）の実家（大館右喜氏宅）に贈り、大館家に飾られました。そして昨年、大館右喜氏より豊高に寄贈されました。



豊岡高校で昭和56年4月から平成4年3月まで書道の授業で教鞭をとられた牛窪梧十先生が、令和4年6月20日に卓越した芸術作品を作成した芸術家または芸術の進歩に顕著な業績のある人に贈られる日本芸術院賞・恩賜（おんし）賞を受賞されました。日本芸術院賞は、日本の学術賞の中で最も権威あるものであり、恩賜賞はその中でも特に優れた方に皇室の下賜金で授与されるものです。先生の受賞作となった「陸游詩」は、古代文字である西周金文を素材とし、重厚な線条、闊達な運筆から生まれる文字の

律動と紙面に躍動感を演出した傑作であるとの評価を得ています。また先生と同年に受賞された方としては、作家の筒井康隆氏がいらっしやいました。過去の受賞者を見ると「道程」で有名な高村光太郎氏、日本画家の東山魁夷氏、作家の井上ひさし氏など日本を代表する著名人が名を連ねています。先生は、象形文字である漢字の草創期のスタイルである金文には、その一画一字にすべて意味があり、偏と旁の組み合わせでさらに文字が増えていくこと、また青銅器鑄造が当時の国家的プロジェ

クトであり、その最先端に金文が位置することなどに古代のロマンを感じるとのことでした。

また先生は篆刻の入門書として『篆刻にしたしむ本』を執筆し、篆刻の魅力を世に広めると同時に、篆書各体の標準的な



字形を選び、初心者でも安心して手軽に使えるよう配慮した「標準篆刻篆書字典」も刊行されています。

授賞式の様子をお聞きしたところ、「授賞式は上野にある日本芸術院で行われるので前日に帝国

ホテルに泊まり式に臨んだ」とのことでした。また式は天皇皇后両陛下のご臨席を賜り挙行され、その後、陛下に作品のご説明をしました。説明の

時間は1人2分とされていましたが、陛下が作品に興味をもたれた様で

次々に質問をなされるので、結局9分の時間がかかったと先生はおっしゃっていました。本来ならば午前中に授賞式があり、午後は皇居でお茶会がおこなわれるのが通例でしたが、コロナ禍のためお茶会は中止になったとお話されています。

最後に先生が豊岡高校に勤務されていた頃の印象をお聞きしたら、女子生徒が居ることにビックリしたとおっしゃっていました。先生は自身が男子校のご出身で、その後

の勤務校も男子校だったので女子生徒の居る高校を経験していなかったからと説明しておられました。また、豊岡高校で伝統的に行われていた「HR発表会」をとてもユニークな行事があったとおっしゃっていました。

先生の作品を間近で見しようと思う方は、毎年3月に埼玉近代美術館で展覧会があるので、足を運んでみてはいかがでしょうか。



写真 牛窪先生提供

卒業生からの手紙



悔しい気持ちが出発点

東京消防庁 防災部震災対策課

消防司令補 天笠 雅章

◎サイエンスキャンプ

25年前、皆さんと同じ豊高生だった頃は天気に興味があり、高2の夏休みに文部科学省が主催するサイエンスキャンプ（SC）に参加しました。気象分野では、私を含めて8名の高校生が全国から集まりました。気象予報士の資格を持つ学生がいるなど、住む地域も育った環境も全く異なる同世代に会うのは、かな



り刺激的でした。実はこのSCの応募倍率は20倍を超えていたのですが、

裏話として、「第3希望まで書ける申込書に、第1希望のみを書いた生徒だけで定員に達した」という理由で私は参加することができました。公的機関等が募集する研修や海外派遣事業は有益なものが多いので、ぜひ興味がある分野で探してみてください。私のように、ちょっとしたことに参加できるチャンスもありますよ。

◎今の自分の出発点

大学受験は適当に勉強すればどこか受かるだろうと甘い気持ちでいました。しかし、受験した大

学は、まさかの5戦全敗でした。1年間は文字通り、朝から晩まで勉強漬けの日々でしたが、人生は甘くないということを知り、若いうちに経験でき、良い戒めとなりました。ちなみに、SC参加者のうち3人が筑波大学、2人が他の国立大学、1人が気象大学校に進学しており、非常に悔しく、また他人の成功が羨ましかったことを覚えています。

◎消防官から学生へ

就職してからしばらくは消防署で勤務し、火災や救急事案に出動していましたが、自然災害についてもっと学びたいと思い、4年目に職場内の大学院研修制度に応募しました。今で言うリスクリ

ングです。庁内の選考試験と大学院入試の両方をクリアしなければいけなかったため、就業後に深夜まで勉強する日々が続きましたが、高校時代に憧れ

ていた筑波大学へ研修に行けるとあって必死に頑張りました。大学院では気象災害について研究していましたが、在籍中に東日本大震災が発生したため、修士論文のテーマは消防に關係する「津波火災」にしました。なぜ津波に押し流された家々が大規模に燃え広がったのか。このときまとめた論文は、NHKでも取り上げていただきました。

今、勉強がつまらないと思う方もいるかもしれませんが、社会問題を解決したいと思ったときに、必ず高校の勉強が生きてきます。授業中に眠くなったときは、「必ず1問、質問する」という意識に切り替えると、緊張して目が覚めますよ！

◎次なる課題

4年前には、内閣府（防災担当）で勤務しました。その時の上司が昔のSC参加者と仲が良

かったり、大学院時代の同級生が勤務していたりと、これまでの経験が重なっていると感じました。2年前からは現職務で自然災害対策に携わっており、今年4月には火山災害対策の取り組みを調査するために米国に出張してきました。災害という脅威に立ち向かうことをライフワークとしてきた私には何ができるのか。その答えを見つけ、実行していくことが次なる課題です。これからの時代は、将来何が起きるのか、どんな課題をどう解決していくのか、その想像力と実行力が求められると思います。豊かな発想力と、岡の上から全体を俯瞰的に見る視野の広さを身に付け、積極的に行動できるように、ぜひ色々なことに挑戦していただください。

（平12高卒）

思い出語り



豊高の思い出

山下 尚人



今は進学校として定着しつつある豊岡高校だが、私が入学した当時は単制高校としての一期生であった。進学に力を入れるタイミングでの入学ではあったが、やはり思い出されるのはアーチェリー部の活動が主だ。2年次生からは、豊高と統合した入間高校のグラウンドで毎日のように70mの練習を日が落ちてからも行った。当時はそれが日常であったが、今となっては非常に贅沢な時間であったと感じる。仲間と何か一つの目標に向かって打ち込む経験は

非常に貴重なものとなった。ただし、一番思い出深いのは高校卒業後の浪人生の期間だ。3年次生の時に担任だった伊藤博彦先生の計らいで、私も含めて4人ほどに毎週土曜日に合宿棟の一室を開放してくださいました。公立高校でそういった対応は難しいと考えられるが、そのおかげで今の私があると感じる。これからの様々な生徒に温かい対応をしてくれる母校であってほしいと願う。

(平27高卒)

クラスメート

當摩 文子

豊高時代のことを想い起こしても、私は家と学校との往復(徒歩)の何もない毎日だったような気がしましたが、卒業して50年も過ぎ3年間に出会えた友と、仕事、子育てで忙しい時を経て今も会えることがとっても幸せです。そして2年2組のクラス会は卒業してから



2019.12.1 豊岡高校クラス会 茶蔵(SAKURA)に於て

當摩前列左2番目

ているとあの時代が蘇ります。今の学生さんは勉強、生活環境が変化していく世の中でも高校での出会いは今も変わらぬと思うので、縁を繋いで頂きたいです。

(昭48高卒)

こんな写真にも「創造」の扁額が!

今回仕立て直しが行われた図書館の「創造」の扁額。校舎建て替えのたび、歴代の図書館内に飾られ続けたものです。

それを示すのが左の古い写真。昭和四十五年の図書館内ですが、右端にしっかりと扁額が写っています。当時、図書館は古い講堂を改築した建物内にありました。その後の移転でも失われずに修理がなされた事は、奇跡と言えるかもしれません。



(3) 特別会計の部 (いるま野農協 東金子支店 普通預金)
 収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)
 2,003,024円 - 964,317円 = 1,038,707円

(収入) (単位:円)

科目	金額	摘要
1 繰入金	300,000	一般会計の部繰出金より
2 雑入	12	預金利子
3 繰越金	1,703,012	前年度からの繰越
合計	2,003,024	

(支出) (単位:円)

科目	金額	摘要
1 会議費	7,580	
2 事務費	956,737	会報15号印刷代、送料等
3 予備費	0	
合計	964,317	

上記のとおり令和4年度決算報告をいたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和5年5月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

4 令和5年度事業計画

(1) 会議等

○常任理事会 令和5年6月26日

(2) 同窓会報の発行

第16号 令和5年9月発行予定

(3) 文化祭参加 令和5年9月9日、10日予定

(4) 同窓会入会式説明 令和6年3月8日予定

(5) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈

(6) 第76回卒業式出席 令和6年3月9日予定

(7) 賛助金の受付

・金額:一口 1,000円

・方法:ゆうちょ銀行に開設した口座に振込

名義「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」

(8) その他

5 令和5年度予算

(1) 一般会計の部 (普通預金)

(収入) (単位:円)

科目	予算額	摘要
1 会費	3,130,000	10,000円×313人(5年度卒業生)
2 賛助金	200,000	1,000円×200口
3 繰入金	0	一般会計の部(定期預金)から繰入
4 雑入	1,177	預金利子
5 繰越金	4,818,823	前年度から繰越
合計	8,150,000	

(支出) (単位:円)

科目	予算額	摘要
1 会議費	250,000	常任理事会経費
2 慶弔費	100,000	慶弔費
3 事務費	500,000	事務局使用料、HP管理料等
4 卒業生費	150,000	卒業証書ケース代
5 激励費	800,000	関東・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	50,000	講演講師謝礼
7 積立金	3,000,000	定期預金へ
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	500,000	同窓会報特別会計の部へ繰出
11 予備費	2,800,000	
合計	8,150,000	

上記のとおり提案いたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

(2) 一般会計の部 (定期預金)

(収入) (単位:円)

科目	予算額	摘要
1 繰越金	5,000,000	
2 繰入金	3,000,000	一般会計より
3 預金利子	1,000	
合計	8,001,000	

(支出) (単位:円)

科目	金額	摘要
1 繰出金	0	
2 定期預金	0	
合計	0	

上記のとおり提案いたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

(3) 特別会計の部

(収入) (単位:円)

科目	予算額	摘要
1 繰入金	500,000	一般会計の部繰出金より
2 雑入	293	預金利子
3 繰越金	1,038,707	前年度からの繰越
合計	1,539,000	

(支出) (単位:円)

科目	金額	摘要
1 会議費	100,000	編集委員会会議費
2 事務費	1,300,000	会報・封筒印刷・送料
3 予備費	139,000	
合計	1,539,000	

上記のとおり提案いたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗

令和5年度 常任理事会報告

過ぐる令和5年6月26日、「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」令和5年度常任理事会を魚いちで開催、無事終了いたしましたのでその概要をお伝えします。

議 事

1 副会長及び常任理事の承認について

副会長	友山 宏一	昭和48年卒
副会長(庶務・会計)	大野 清恵	昭和49年卒
庶務・会計	上原 みゆき	昭和52年卒
庶務・会計	加藤 保夫	昭和52年卒
常任理事	大室 重喜	昭和46年卒

2 令和4年度 事業報告

(1) 会議等

○常任理事会 令和4年6月27日

(2) 同窓会報の発行

第15号 令和4年9月1日発行

(3) 文化祭参加 なし(コロナウイルス感染症の影響により文化祭が生徒のみ参加となったため)

(4) 同窓会入会式説明 令和5年3月10日

(5) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈

(6) 第75回卒業式 令和5年3月11日(コロナウイルス感染症拡大防止の為、卒業生・保護者1名・教職員のみ参加)

(7) 関東・全国大会出場選手等の激励

- ・関東高等学校アーチェリー大会 2名激励
- ・関東高等学校陸上競技大会 12名激励
- ・全国高等学校総合体育大会陸上大会 8名激励
- ・全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技 1名激励
- ・国体関東ブロック大会アーチェリー競技会 1名激励
- ・関東陸上競技選手権大会 9名激励
- ・バトントワリング関東大会 9名激励
- ・関東高等学校選抜新人陸上競技大会 2名激励
- ・関東高等学校選抜アーチェリー大会 4名激励
- ・全国高等学校選抜アーチェリー大会 4名激励

(8) 同窓会会報賛助金の受付

3 令和4年度 決算報告及び監査報告

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

(1) 一般会計の部(飯能信用金庫 入間支店 普通預金)

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)
10,971,406円 - 6,152,583円 = 4,818,823円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会 費	3,089,230	10,000円×309人(4年度卒業生)-振込手数料
2 賛助金	314,000	1,000円×314口
3 繰入金	0	
4 雑 入	43	預金利子
5 繰越金	7,568,133	前年度から繰越
合 計	10,971,406	

(支出) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	0	
2 慶弔費	10,000	役員慶弔費
3 事務費	204,049	HP更新作業費、はがき、切手代等
4 卒業生費	118,534	卒業証書ケース代
5 激励費	520,000	関東大会・全国大会等出場激励費
6 講師謝礼費	0	
7 積立金	5,000,000	定期預金へ
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
10 繰出金	300,000	同窓会特別会計の部へ繰出
11 予備費	0	
合 計	6,152,583	

上記のとおり令和4年度決算報告をいたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗
上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和5年5月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安
埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

(2) 一般会計の部(定期預金)

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)
5,000,000円 - 0円 = 5,000,000円

(収入) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰越金	0	
2 繰入金	5,000,000	積立金より
3 預金利子	0	
合 計	5,000,000	

(支出) (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰出金	0	
2 定期預金	0	
合 計	0	

上記のとおり令和4年度決算報告をいたします。

令和5年6月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 村野 志朗
上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

令和5年5月26日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安
埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西澤 昇

事務局だより

新役員も決まり、コロナも5類となり、同窓会の活動も従前に戻ります。ほとんど在校生と接する機会もありませんでした。今年、文化祭に参加できるかもしれません。

新理事をご紹介します

大室重喜氏(昭46高卒)
加藤保夫氏(昭52高卒)
上原みゆき氏(昭52高卒)

賛助金のお礼

令和4年度は延べ91人の方から総額三十一万四千元のご厚志を頂きました。会報発行の為に有意義に使わせていただきます。ありがとうございました。

おめでとうございます

百周年記念式典の記念講演会で、ご講演いただいた(令和3年発行出藍号外参照)小林駿介東京農工大学名誉教授(豊実昭26年卒)が令和4年秋の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されました。



令和4年度卒業 同窓会クラス代表

Table with 6 columns and 4 rows listing graduates and their representatives.

朝ドラ「らんまん」に寄せて

生物の先生だった野口徳太郎先生は、NHKの朝ドラ「らんまん」の牧野富太郎博士と一緒に、よくこの武蔵野を歩いたと話されました。

一度、入間市駅と稲荷山公園駅の間の林に生物の時間に出かけたことがあります。野口先生は足元の草ひとつひとつの名前を挙げながら進みます。ハンノキの話をしたことを覚えています。小高いところからの入間川方面の景色もきれいでした。

先生は「武蔵植物友の会」を作り活動されてきました。また、昭和48年3月「入間市の植物」という本を出版されました。テレビの「らんまん」を見ていると、野口先生も登場しそうな気がします。

編集後記

出藍10号から編集委員となり、7年目となりました。

「思い出語り」や「特集」では、豊岡高校の歴史の深さを感じます。「卒業生からの手紙」では、様々な方面で活躍されている姿に私自身も頑張ろうという気持ちになります。今後も出藍の編集を通して豊岡高校の歴史や今を見ていきたいと思っています。(恵)

今号では、日本の書道界で大活躍され、この度「恩賜賞」を受賞されました牛窪梧十先生を特集しました。

取材時に、担任をしていただいた40年前と変わらぬ笑顔でエピソードをお話くださいました。

ここに『出藍』第16号が完成いたしました。ご高覧のほどよろしくお願ひ申し上げます。(泉)

発行所 〒三三八一〇〇〇三 埼玉県入間市豊岡一―一五―一
埼玉県立豊岡高等学校 同窓会報編集委員会
TEL 〇四―二九六二―五二二六 FAX 〇四―二九六〇―一〇五三
メールアドレス f625216@pref.saitama.lg.jp
ホームページ http://toyokodoso.org/

発行人 村野志朗
編集委員 大野清恵
足立宏・木口勝巳
黒田哲・小林守利
高原誠子・竹永恵美
田中孝幸・野口晴康
橋本浩和・平田洋
山田美和・小川雄
廣瀬いづみ